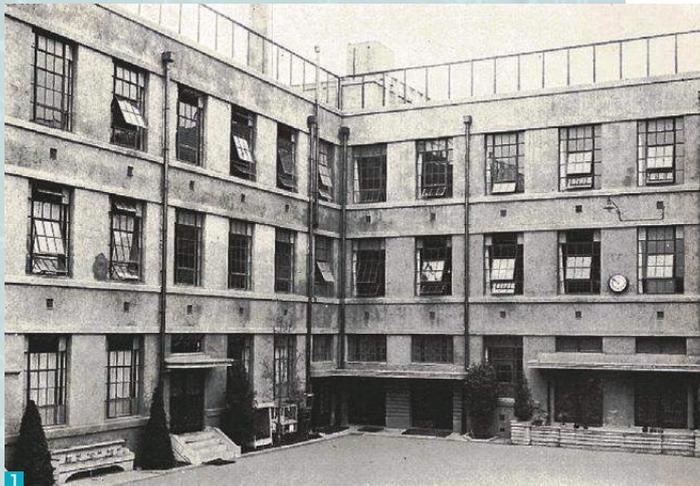


# 文化財 ニュース

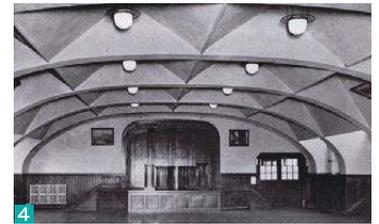
12 Summer 2017



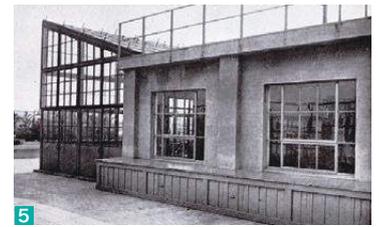
1



2



4



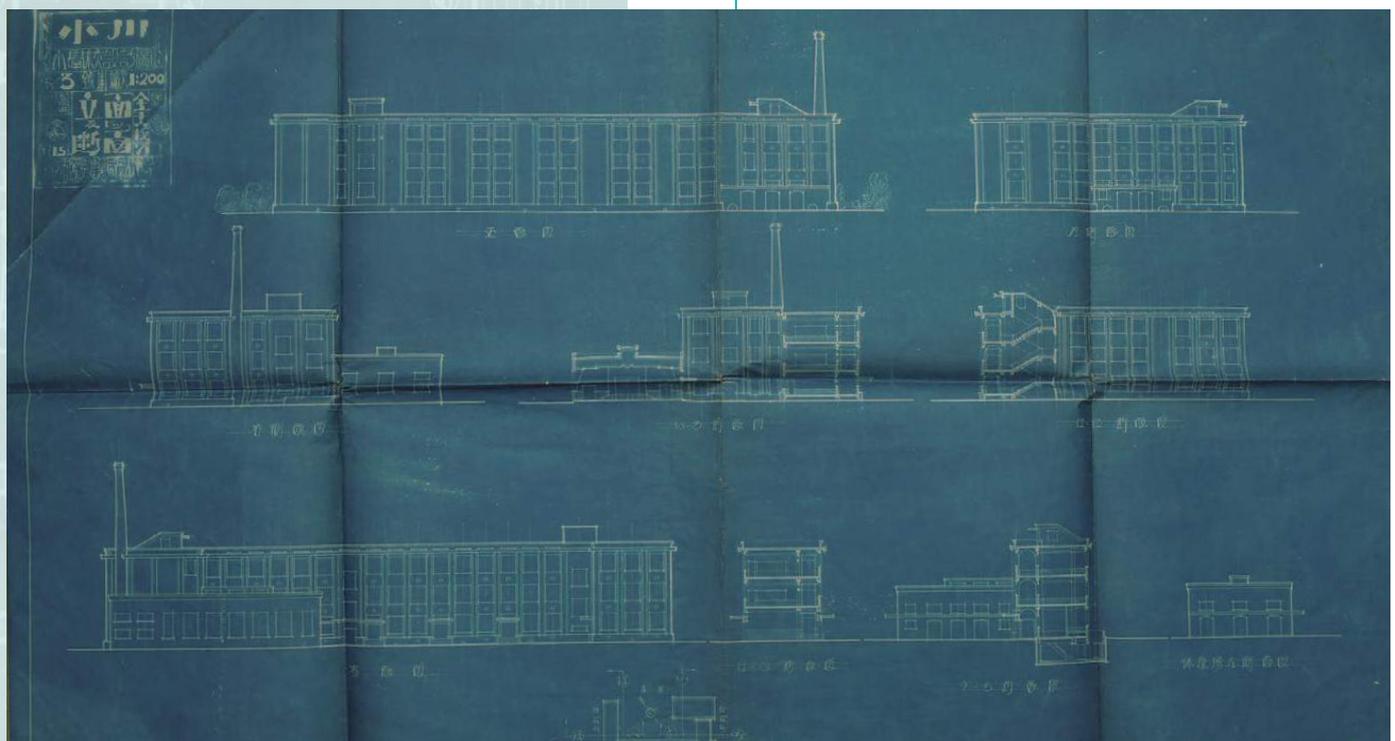
5



3

1. 橋本小学校
2. 今川小学校
3. 一橋高等学校
4. 淡路小学校 (講堂)
5. 西神田小学校 (日光浴室)

出典：東京市役所編纂『東京市教育施設復興図集』（勝田書店、昭和7年）



小川小学校設計図第3図 立面及ビ断面 (千代田区指定文化財)

# 旧神田区復興小学校建築関係文書



指定文化財簿冊・図面

大正12年（1923）9月1日に発生したマグニチュード7.9の大地震「関東大震災」は、東京、横浜をはじめとする関東一円に大きな被害をもたらしました。

千代田区（麹町区・神田区）内では、小学校の被害も大きく、麹町区では2校、神田区では13校の計15校（3ページの表参照）が焼失しました（東京市（当時）全体では総数196校中、117校が焼失）。

震災後、東京市は、これらの焼失した小学校で露天授業や天幕授業を行い、後には仮校舎を建設して教育を継続しましたが、大正13年（1924）から昭和5年（1930）にわたり復興費約4,105万6,000円の予算で、帝都復興事業として117校の小学校を建設しました。耐震・耐火性を考慮し、鉄筋コンクリートで建造されたこれらの小学校を「復興小学校」と呼びます。千代田区内（麹町区・神田区）では、焼失した15校が復興小学校として再建されたほか、3校が新たに鉄筋コンクリート造で建

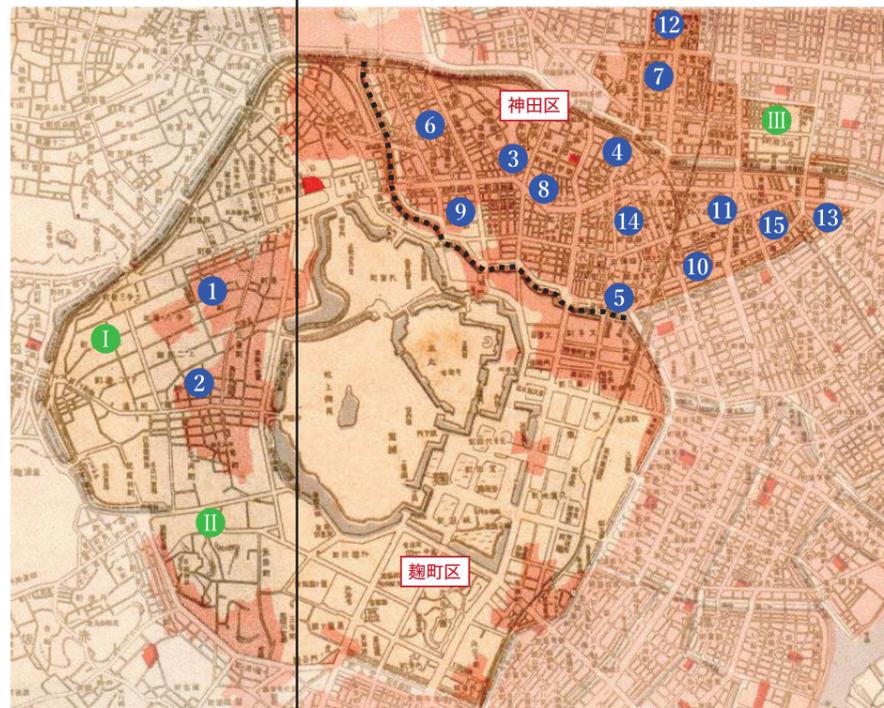
\*千代田区における関東大震災の被害については4～5ページをご覧ください

設されました。

帝都復興事業では東京市が一括して校舎設計を担当し、各区が建設を行いました。各小学校は、L字形またはコの字形、口の字形の鉄筋コンクリート造3階建てで、中央に屋外運動場が配置されました。

共通した設計に基づき、普通教室の柱間寸法や各階の高さ、窓面積などが細かく指定された一方、外観のデザインは各学校で異なっています。また、東京市内の52校（千代田区の小学校では7校）に震災復興土地区画整理事業により新たに小公園が併設されました。

今回の指定は、神田区内の復興小学校を建設した際の書類（簿冊）及び図面です。簿冊の数は、神田区内の復興小学校12校（錦華小学校（現：お茶の水小学校）を除く）と、同時期の鉄筋コンクリート造小学校である佐久間小学校を合わせた計37冊です。また図面は、淡路小学校、西神田小

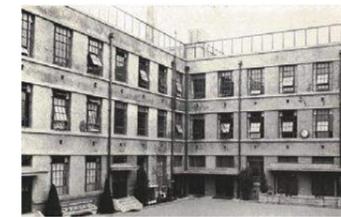


千代田区内復興小学校・コンクリート造小学校一覧  
東京市役所編纂『東京市教育施設復興図集』（勝田書店、昭和7年）より作成  
●●●●は麹町区・神田区の区境

学校、小川小学校の3校を建設する際の設計図など計78枚です。

これらの資料は、神田区が復興小学校建設にどう関わったのかを明らかにするとともに、神田区が復興期（大正末～昭和初期）に近代都市へ変化する過程を示すものです。特に当時の最新技術（鉄筋コンクリート造、水洗トイレなど）の導入に関する書類が多くあり、業者の選定過程や施工時の工夫を知ることができ、校舎の耐震性や不燃化だけでなく、近代的設備を持つ学習環境の実現を目指した画期的な事業であったことが分かります。

また、建設地の周辺住民と境界をめぐるやり取りがあったことを示す神田区長宛の陳情書などもあり、復興小学校の建設と地域との関わりを知る上でも重要な資料です。  
（長谷川怜）



橋本小学校



芳林小学校



一橋高等学校



神田小学校



神龍小学校



千桜小学校

復興小学校写真

東京市役所編纂『東京市教育施設復興図集』（勝田書店、昭和7年）より

千代田区（麹町区・神田区）の復興小学校一覧 \*麹町区→神田区の順。竣工年順

	学校名	所在地（当時）	竣工
麹町区	① 上六小学校	上六番町 34 番地	大正 15 年（1926） 8 月 30 日
	② 麹町小学校	元園町 1 丁目 31 番地	昭和 2 年（1927） 3 月 31 日
神田区	③ 錦華小学校	猿楽町 1 丁目 6 番地	大正 15 年（1926） 5 月 31 日
	④ 淡路小学校	淡路町 2 丁目 5 番地	昭和 2 年（1927） 1 月 31 日
	⑤ 神龍小学校	鎌倉河岸 2 号地	昭和 2 年（1927） 2 月 28 日
	⑥ 西神田小学校	西小川町 1 丁目 15 番地	昭和 2 年（1927） 12 月 6 日
	⑦ 芳林小学校	金澤町 25 番地の 1	昭和 2 年（1928） 1 月 28 日
	⑧ 小川小学校	小川町 16 番地	昭和 3 年（1928） 5 月 16 日
	⑨ 一橋高等学校	一ツ橋通町 2 番地	昭和 4 年（1929） 2 月 15 日
	⑩ 今川小学校	紺屋町 22 番地	昭和 4 年（1929） 2 月 28 日
	⑪ 千桜小学校	東松山下 59 番地	昭和 4 年（1929） 5 月 15 日
	⑫ 練成小学校	五軒町 31 番地	昭和 4 年（1929） 10 月 14 日
	⑬ 橋本小学校	橋本町 2 丁目 12 番地	昭和 4 年（1929） 10 月 15 日
	⑭ 神田小学校	新銀町 27 番地	昭和 4 年（1929） 11 月 18 日
	⑮ 和泉小学校	大和町 38 番地	昭和 5 年（1930） 2 月 5 日

千代田区（麹町区・神田区）の鉄筋コンクリート造小学校一覧

	学校名	所在地（当時）	竣工
麹町区	① 番町小学校	下六番町 35 番地	大正 13 年（1924） 5 月 13 日
	② 永田町小学校	永田町 1 丁目 19 番地	昭和 12 年（1937） 10 月 18 日
神田区	③ 佐久間小学校	神田和泉町 1 番地	昭和 8 年（1933） 8 月 6 日

\*小学校名は資料（簿冊）に記載された名称に基づいた。

# 千代田区と関東大震災

## ◆千代田区の甚大な被害

千代田区（麹町区・神田区）が関東大震災によって受けた被害は甚大なものでした。

激しい揺れによって八重洲や神保町、日比谷などで多くの建物が倒壊しました。揺れに引き続き、各地で発生した火災は麹町区・神田区の広範囲を襲いました。とりわけ、木造家屋の倒壊が著しかった神田区では、区の面積の94%が焼失しました。

激しい火災の中、佐久間町一帯の住民たちは一致団結して消火にあたり町一帯を守り抜きました。現在、和泉公園には「防火守護地」（東京都指定旧跡）の石碑が建てられています。

地域のランドマークだったニコライ堂も鐘楼とドームが崩壊しました。また、神田明神や万世橋駅、警視庁や文部省をはじめとする官公庁も多くが倒壊・焼失しています。

皇居前広場や日比谷公園、東京駅前などは罹災した人々の避難場所となり、テントやバラックの建ち並ぶ光景が見られました。

	大正11年の人口 (震災直後の人口)	死者	行方不明者	被災世帯数 (全世帯数)	被災世帯割合	焼失面積割合
麹町区	63,401人 (57,267人)	95名	42名	8,329世帯 (11,590世帯)	72%	22%
神田区	168,837人 (67,946人)	1,055名	464名	27,990世帯 (30,910世帯)	91%	94%

『新編千代田区史』（千代田区、平成10年）より作成



跡の堂イラコニ古跡 (田神)

### 倒壊したニコライ堂（絵葉書より）

明治24年（1891）に建設された。鐘楼とドームを失った姿が写されている。信者からの献金などにより昭和4年（1929）、現在の姿に復原された。

## ◆復興へ向かう千代田区

東京の中心部は焼野原となり、電気やガス、水道などの生活インフラ、市電などの交通機関も破壊されました。こうした壊滅的状況から人々は立ち上がり、復興に向け



和泉公園に建つ防火守護地の碑（左）  
住民の消化活動で焼け残った佐久間町周辺（下）



### 日比谷付近の被害（絵葉書より）

震災直後に撮影されたと思われる日比谷公園交差点付近の様子。傾いた建物や避難民が写されている。



復興期の千代田区の様子（絵葉書より）  
小川町交差点から駿河台方面を撮影。中央が現在の本郷通りで、左右に靖国通りが通っている。後方には昭和4年に再建されたニコライ堂が見える。絵葉書は1930年代初頭。

た動きが始まります。

震災直後に第二次山本権兵衛内閣が発足すると、内務大臣の後藤新平が復興計画を提案します。帝都復興院（後に廃止。内務省の部局として復興局設置）の主導のもと、区画整理事業や公園の設置、道路や橋梁の整備などが実施されました。また、東京市が主導する復興事業も進展しました。耐震・耐火構造による復興小学校建設は東京市が主導した事業のひとつです。

千代田区内では、火災で焼失した地域の区画整理事業、数々の橋梁の再建・新築、靖国通り（東京都道302号新宿両国線。当初は大正通り）に代表される街路の拡幅工事などが行われました。また、現在の神田須田町にあった神田青物市場は震災で焼失したことから秋葉原駅付近に移転し再スタートを切りました（ほぼ同時期に、日本橋魚市場が築地へ移転し中央卸売市場となりました）。

昭和4年（1929）に帝都復興を記念する展覧会が日比谷で開催され、翌年には東京市内で帝都復興祭が開催されます。同年、復興局が廃止となり業務を引き継いだ復興事務局も昭和7年（1932）に廃止され、帝都復興事業は完了しました。

千代田区教育委員会は、これまでも関東大震災の具体的な復興を示す資料を文化財指定し、保存を図ってきました。

（長谷川怜）



### 帝都復興祭の様子（絵葉書より）

昭和5年（1930）、震災からの復興を記念して開催された帝都復興祭では、昭和天皇による復興した地域の視察、帝都復興完成祝賀会の開催、祝賀行列などが行われた。この絵葉書には、馬場先門に建つ三菱二号館前を通過する音楽隊の姿が写されている。

### ◆震災復興関係の千代田区指定文化財

千代田区の文化財の中には、今回指定した旧神田区復興小学校建築関係文書以外にも、震災復興関係の資料が存在します。

#### 旧道路台帳図面

大正9年の道路法施行により、東京市が作成した道路台帳の図面。震災復興期の千代田区域の道路状況が明らかになる資料です。

#### 震災復興橋梁図面（麹町区・神田区）

関東大震災復興の過程で架橋もしくは修復された区内の橋梁のうち、原因が保存されていたものです。図面は、当時の内務省復興局などが作成し、橋梁管理が都から区へ移管された時に、区へ引き渡されたものです。震災復興後の千代田区内の都市計画等を知る具体的な資料群といえます。

#### 震災記念の碑

大正12年（1923）に発生した関東大震災の際に、この地にあった東京商工学校の校舎で、周辺住民が避難生活を送った。その記念として、震災1周年の大正13年9月1日に建立された石碑。

#### 工部大学校址碑

土木工学などの教育を行うために設置された工部大学校の出身者により昭和14年に建てられた。震災で倒壊した建造物の廃材でつくられている。

収蔵庫から  
「唐子琴棋書画図屏風」

(左隻)



紙本着色 六曲一双 各54.5×146.0cm

中国風の装いで、頭の一部に髪を残して他の毛を剃った奇妙な髪型の子もたちが描かれています。このような子どもを、日本では「唐子」と呼び、江戸時代には盛んに絵画化されました。

今回取り上げるのは、紙に銀泥を塗った枕屏風の作品です。枕屏風とは、枕元に立てる背の低い屏風のことで、風よけや防寒のために用いられました。寝室を飾るものなので、この屏風には子宝を願う気持ちが込められていたかもしれません。

右隻と左隻を並べて見ると、青々とした水辺によって陸地が隔てられ、ほぼ対称的に山々や人物が配されています。松や岩は濃墨で力強く描かれています。人物の肉体や白い着物の輪郭は、流れるような薄い墨の線で象られています。着衣の文様は細かく描き込まれており、金や銀が施されています。顔はやや下膨れで、目が細く、特に黒目が小さく表されているのが特徴です。

作者は不明ですが、事物の描き方や画題の選択などから考えると、伝統的な絵画の主流であった狩野派を学習した人でしょう。細部も手が込んでいて、例えば、左隻の赤い着物の唐子が掲げる掛軸には、「長生殿裏春秋富 不老門前日月遅（長生殿の裏には春秋富めり 不老門の前には日月遅

し）」と記されています。これは『和漢朗詠集』巻下に収録される天子の長久を寿ぐ詩で、祝いの言葉として知られていました。

さて、屏風の中の人物は一体何をしているのでしょうか。まず、右隻では屋内にいる女性が箏を弾き、その手前で二人の唐子が碁を打っています。左隻では、唐子が書をしたためているのか、机の上に竹の描かれた水墨画を広げて筆をとっています。その隣で唐子が掛軸を掲げ、その裏から顔をのぞかせています。

箏を弾き、碁を打ち、書や絵をかくことを「四芸」といい、古くから中国では教養ある人が修めるべき嗜みとされてきました。日本では、室町時代以降に「琴棋書画」という画題で好まれ、障壁画などにしばしば取り上げられています。この屏風は「琴棋書画」の画題が唐子の姿で見立てられていることから、子どもが教養を会得することを祈念して作られたのではないかと考えられます。

この屏風は、かつて千代田区にお住まいの方から寄贈されました。千代田区教育委員会ではこのような千代田区の暮らしに寄り添ってきた美術資料を収蔵しています。今後も文化財ニュースで紹介していきます。(井上海)

(右隻)



埋文ニュース

永田町一丁目遺跡の発掘調査

千代田区教育委員会は、平成28年4月に永田町一丁目遺跡（千代田区No.37）の発掘調査を実施しました。この発掘調査では、火災で焼けた瓦を大量に廃棄した層が確認され、中から徳川家の家紋である三葉葵の軒丸瓦も出土しました。

調査地点である永田町付近は、これまでも多くの遺跡が調査されている地域で、特に溜池遺跡（千代田区No.58）の調査では、5mを超える江戸時代の盛土が見つっています。溜池の谷は、もともと新宿区若葉町を最上流部とし、赤坂御所を経て弁慶濠へと続く大きなもので、低地帯を埋め立てながら今日のような地形が形作られてきました。

溜池は、江戸時代前期には水運の拠点としても利用されており、江戸城へと続く北岸は、譜代大名や旗本に占められていました。今回の調査地にも、19世紀初頭まで成瀬氏、それ以降は鳥居氏という旗本が屋敷に住んでいたことが古地図などから読み取れます。成瀬氏は1,200石、鳥居氏は1,500石をそれぞれ知行した中規模の旗本で、御使番や留守居番を務めた家柄でした。



『江戸図正方鑑』元禄6年（1693）ころの様子



出土した 軒丸瓦・棧瓦



出土した建物の礎石と火災の層

発掘調査では、建物の基礎とみられる礎石の列と、その上に推積した大量の焼けた瓦を廃棄した厚さ90cmに及ぶ火災の層が見つかりました。建物の正確な年代は不明ですが、火災の層に含まれる瓦が、17世紀後半から18世紀前半に作られたものに集中していることから、この礎石と火災の層は成瀬氏が屋敷を構えていた時期のものと考えられます。焼けた瓦は、一般に赤く変色しますが、特に強く被熱するとひび割れたり、ゆがんだりする場合があります。今回の調査でみつかった瓦の中には、こうした状態のものも含まれており、屋敷を襲った火災が激しいものであったことがうかがえます。また、三葉葵の軒丸瓦が見つかったことから、近隣にはないはずの徳川家に関わる屋敷まで火が及んだことがわかります。これらのことから、火災の層に含まれる瓦は18世紀前半ころの大規模な火災で焼けたものを、この場所に集めてきたものだとみることができます。

江戸の町では火事が多かったといわれていますが、その一方で、人々はその廃棄物を谷筋に集めて埋め立てし、土地の造成に役立ててきました。永田町一丁目遺跡の火災の層からは、江戸の町づくりのたくましさを垣間見ることができます。

(相場峻)

# 平成28年度開催 講座・講演会報告

文化財事務室が昨年度に開催した講座・講演会は以下のとおりです。今年度も様々な企画を行う予定ですので、ぜひご参加下さい。開催告知は、「広報千代田」のほか、日比谷図書文化館をはじめとする区内施設での配布チラシ、文化財事務室HPで行います。



名所案内に見る昔の麹町



秋葉原・万世橋の近代史



江戸城ウォーク

## 〈文化財講座・史跡めぐりなど〉

開催日		内容	会場	受講者
7月1日・2日	現場見学会	国指定史跡 常盤橋門跡・常盤橋解体修理工事現場見学会	常盤橋修理現場	240名
10月15日	史跡めぐり	神田ウォーク	三崎町・神保町界限	20名
10月26日	講座	むかしの千代田ー明治・大正を旅するー	日比谷図書文化館小ホール	27名
11月3日	史跡めぐり	江戸城ウォーク	皇居東御苑ほか	48名
11月16日	講座	江戸の浮世絵を見てみようー紀伊国屋三谷家コレクションの絵画からー	日比谷図書文化館小ホール	41名
12月10日	史跡めぐり	発掘された大名屋敷を歩く	北の丸公園・駿河台ほか	11名
12月16日	講座	発掘された大名屋敷	日比谷図書文化館小ホール	34名
1月11日	講座	有楽町一丁目遺跡発掘部材から見る江戸初期・大名屋敷の華やかさ	日比谷図書文化館大ホール	91名
1月18日	講座	江戸勤番武士の生活と実態	日比谷図書文化館大ホール	130名

## 〈地域の歴史を知る講座〉

開催日	内容	会場	受講者
9月29日～全3回	名所案内に見る昔の麹町	麹町区民館	20名
10月27日～全3回	秋葉原・万世橋の近代史	和泉橋区民館	11名

## 〈子ども体験教室〉

開催日	内容	会場	受講者
8月27日	江戸城と日比谷公園の歴史を勉強しよう！	日比谷図書文化館・日比谷公園・桜田門付近	12名



開館時間 月～金 午前10:00～午後10:00  
土 午前10:00～午後7:00  
日・祝 午前10:00～午後5:00  
文化財事務室 月～金 午前10:00～午後6:00  
※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。  
休館日 毎月第3月曜日  
年末年始(12月29日～1月3日)  
特別整理期間

文化財ニュース 第12号 (2,000部)

発行日 平成29年6月30日

編集・発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室  
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4  
TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361  
HP: <http://hibiyal.jp/bunkazai/index.html>  
e-mail: [bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp](mailto:bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp)

印刷 能登印刷株式会社

都営地下鉄 ●三田線ー「内幸町駅」徒歩3分  
東京メトロ ●千代田線  
●日比谷線 } 「霞ヶ関駅」徒歩5分  
●丸ノ内線

駐車場 当施設に駐車場はありません。